東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009年4月17日

クルアーン -I-

親愛なるムスリムの皆様。崇高なるアッラーは人々が現世と来世の幸福を手にすることができるため、人々の中から導き者として選ばれた預言者たちをとおし、そのメッセージを有史以来送り続けていました。最後に送られた神の書は、経典クルアーンです。

クルアーンとは、単語としては「読む」という意味を持つ動名詞です。実際クルアーンでは、「（これは）われが分割（して啓示）したクルアーンであり、あなた（預言者）にゆっくりと人びとに読唱するために、必要に応じてこれを啓示した」（夜の旅章第１０６節）「そこでわれは、以前に多くの民衆が滅び去った民の中に、あなたを遣わした。それはわれが啓示によってあなたに下すものを、慈悲深き御方を未だ信じないでいるかれらに、読誦させるためである」（雷電章第３０節）と表現されており、ゆっくりと読誦するという意味でクルアーンの名が示されています。

専門用語としては、クルアーンとは崇高なるアッラーにより、ガブリエルを通して最後の預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）にアラビア語で下され、世代から世代へと途切れることなく伝えられ書き残され、それを読誦することが崇拝行為となる聖なる書物の名です。クルアーンでは「言ってやるがいい。『聖霊が真理をもって、あなたの主からの啓示を齎して来たのは、信仰する者を強固にするためであり、またムスリムたちへの導きであり吉報である。』」（蜜蜂章第１０２節）「われはこの（クルアーン）を真理をもって下したので、それは真理によって下った。そしてわれは、吉報の伝達者、または警告者としてあなたを遣わしただけである。」（夜の旅章第１０５節）「アッラーについて、虚偽を作り上げる以上に、不義を行う者があろうか。また何も啓示を受けないのに『わたしに、啓示が下った。』と言う者。あるいは『わたしはアッラーが下されたのと、似たものを下せる。』と言う者（以上に不義者があろうか）。」（家畜章第９３節）「万有の主からの啓示である。」（出来事章第８０節）という多数の節においてこの意味が解明されています。

親愛なるムスリムの皆様。クルアーンが対象としているのは人間です。アッラーは人々の間にあったシルク（アッラー以外の何ものかを神と見なすこと）を完全に取り除くため、そしてタウヒード（神の唯一性）を確固たるものとしるため、ご自身の特性、創造、そしてその美名を、人々に、クルアーンをとおし最も正しい形で説かれ、それによって人間を誤った信条から遠ざけられたのです。雌牛章では「アッラー、かれの外に神はなく、永生に自存される御方。仮眠も熟睡も、かれをとらえることは出来ない。天にあり地にある凡てのものは、かれの有である。かれの許しなくして、誰がかれの御許で執り成すことが出来ようか。かれは（人びとの）、以前のことも以後のことをも知っておられる。かれの御意に適ったことの外、かれらはかれの御知識に就いて、何も会得するところはないのである。かれの玉座は、凡ての天と地を覆って広がり、この２つを守って、疲れも覚えられない。かれは至高にして至大であられる。」（雌牛章第２５５節）と述べられ、崇高なるアッラーはご自身を人々に知らせておられます。同時に、アッラーに対するしもべとしての責任とはどのようなものか、どのような行為を行う者がアッラーのご満悦を得るのか、どのような態度をとることがアッラーによる罰をもたらすものとなるのかをクルアーンで私たちに示しておられます。

「ラマダーンの月こそは、人類の導きとして、また導きと（正邪の）識別の明証としてクルアーンが下された月である」（雌牛章第１８５節）と述べられ、人々を真実に導く正しい道を示し、それによって現世と来世の幸福の根本的原則が語られているのです。このテーマは来週も続けます。